

報告事項

2022 年度事業報告

I 総括

2022 年度の日本建築家協会 (JIA) の活動は、新型コロナウイルス感染の影響を受けて、事業のさらなる開催延期や規模縮小、オンライン方式での開催を余儀なくされましたものもありましたが、その中でも、「JIA 建築大会 2022 沖縄 (全国大会)」や各支部大会の開催、国際会議への現地参加をはじめ、国内・外の活動の一定部分は、コロナ禍以前と同様に再開することができました。

本年度から、「頼りになる建築家、頼りになる JIA」を基本テーマに掲げて、社会と密接につながる建築家の仕事や活動を、建築界だけでなく、一般市民の方々に理解していただくため、広く社会に発信していくことを重要な施策と位置づけています。

[2022 年度の重点施策と活動]

本年度に実施した重点施策は以下の通りです。

1. 「頼りになる建築家、頼りになる JIA」の社会への発信

「頼りになる建築家、頼りになる JIA」のテーマに沿って、デジタルツール等の活用をはじめ社会に向けた情報発信の拡充に力を入れています。

本年度は、本部ホームページのリニューアル、SNS 媒体 (インスタグラム) の活用と動画コンテンツの作成、さらに公益情報発信データベースの構築に取り組みました。また、全国大会や支部大会、その他セミナーやイベント等で、オンライン活用もあわせて、社会に対して積極的な情報発信を行いました。

2. 「地域に根ざした公益事業」の推進

建築文化の振興、まちづくりへの支援、地震等の災害発生時や復興への支援、建築物の保存・再生活動、消費者に対する建築相談をはじめ、「地域に根ざした」公益事業を支部・地域会を主体に実施しています。

本年度は、北海道の建築の歴史をテーマとする「北海道の建築展 2022」、東北大震災後 10 年の復興を統括するイベント開催、全国大会における首里城復元に関する情報発信をはじめとする地域の貴重な建築物の保存・再生活動に加え、地域ごとに主催する各種表彰事業や学生卒業設計コンクール、建築相談活動等を行いました。

3. 教育・育成プログラムの拡充と若手の育成

各種教育・育成プログラムの拡充と情報発信力の強化を推進しています。特に将来の建築設計界と JIA を支える若手の育成を重視しています。

本年度は、建築家継続職能教育 (CPD) のプログラムの拡充とあわせて、セミナー等のアーカイブス化による随時アクセス可能な環境を充実させています。また、学生会員の入会促進と学生同士の交流への支援を実施しました。

4. 変革期の業務環境への対応

近年の建築市場の変化、建築生産システムの多様化、デジタル関連技術の急速な進展等に伴って大きく変わりつつある業務環境の課題への対応に力を入れています。

本年度は、設計業務報酬基準(告示 98 号)の改定に向け、適正な基準改正が行われるよう、国交省の検討委員会に対してきめ細かな意見提出を行いました。また、BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)の普及促進のため、建築設計三団体が連携して、国交省の施策への支援を実施しました。

5. 海外ネットワークの強化と情報収集の推進

UIA(国際建築家連合)や ARCASIA(アジア建築家評議会)、海外建築関連団体等とのネットワークの強化とあわせて、海外の情報収集や調査研究活動を推進しています。

本年度は UIA や ARCASIA の大会・会議への現地参加、協定締結団体とのオンラインも活用した交流に加え、リトアニア建築家協会とのイベント「EAST-EAST5」の共催や全国大会にあわせた海外協定締結団体との国際会議(IPF)開催といった意欲的な取組みを行いました。また、日本建築センターの支援を受けて、本年度の国際活動を報告書にまとめ、関係団体等への配布、ホームページへの掲載を行いました。

6. 社会全体に関わる重要な課題への取組み

グローバルな環境問題をはじめとする社会全体に関わる重要な課題に対して、引き続き取り組んでいます。

本年度は、前年度に引き続き、「2050 カーボンニュートラル」の実現に向けて、関連分野の学識経験者や実務家を講師として、オンライン方式のセミナー「2050 カーボンニュートラル連続セミナー第3期」を開催し、会員だけでなく、多くの建築関係者の方々等が視聴しました。また、会員による提案集「カーボンニュートラルの樹を育てよう」を取りまとめて冊子配布とホームページ上での公開、チャットサイトの開設を行いました。

7. 「建築家資格制度」今後のあり方の検討

前年度に引き続き、建築家資格制度について、社会からの認知の向上や資格取得者の拡大を目指して、社会や建築界の動向にも十分留意しながら、今後の制度のあり方を検討しています。

本年度は、担当委員会での検討に加えて、理事会メンバーによる勉強会を開催して意見交換を進め、課題の整理等を行いました。

[2022 年度分野別の主な事業活動]

2022 年度の事業分野別の主な活動は以下の通りです。活動の内容については、委員会・全国会議等の活動報告および支部の活動報告については別途記載しています。

1. 建築環境整備事業

1) 環境保全活動

住宅をはじめとする建築物や都市の環境保全、省エネルギー化の推進を目的に、社会や関係行政への普及広報活動を行いました。カーボンニュートラル実現に向けてオンライン方式のセミナー「2050 カーボンニュートラル連続セミナー第3期」を開催に加え、会員による提案集「カーボンニュートラルの樹を育てよう」を取りまとめて冊子配布とホームページ上で公開し、さらにチャットサイトの解説を行いました。

2) まちづくり・建築物保存再生活動

自然・歴史・文化・地域社会・安全などに配慮したまちづくりをめざして、セミナーやシンポジウムの開催等、地域に密着した取組みを実施しました。また、価値の高い建築物の保存再生のため、社会や関係行政に対する提言・支援を行うとともに、「文化財修復塾」制度の運営、他団体と連携して建築物の調査等の活動を実施しました。

3) 災害対策活動

近年頻発する地震や水害に対して、引き続き、支部・地域会を中心に地域に密着した災害発生時や復興に関する支援を続けています。東北大震災後 10 年の復興を統括するイベント開催等を開催しました。なお、大規模な地震(震度6弱以上)等の発生に対しては、災害対策本部を設置し、自治体等と協力して支援活動を行う体制をとっています。

4) 建築相談活動

建築・増築・リフォームの相談、欠陥住宅問題等のトラブルへの対応をはじめ、一般消費者からの依頼に応じて、支部・地域会の建築相談委員会や建築相談室が、コロナ感染防止対策を配慮した上で、住まいに関するきめ細かな建築相談活動を実施しました。

2. 建築文化育成・交流事業

1) 表彰活動

「JIA 日本建築大賞」「JIA 優秀建築賞」「JIA 新人賞」「JIA 25 年賞」「JIA 環境建築賞」の表彰事業を主催しました。受賞作品を収録した JIA 建築年鑑の出版を行いました。さらに支部・地域会では、地域の特色を活かしたさまざまな表彰事業や、支部・地域会の主催・連携による「学生卒業設計コンクール」を実施しました。

2) 交流活動

広く社会や建築関係者に対して、建築文化の普及・振興を図ることを目的として、支部・地域会主体に、コロナ感染防止対策を配慮した上での建築文化に関するシンポジウム、講習会の開催、そして建築文化関連図書の出版協力やパンフレット作成等を実

施しました。

3) 国際協力活動

UIA、ARCASIA の大会・会議、海外の建築関連団体との会議に現地またはオンラインで参加し、海外との情報交流を行いました。リトアニア建築家協会とのイベント「EAST-EAST5」の共催、海外協定締結団体との国際会議(IPF)を開催も実施しました。また、本年度の国際活動を報告書にまとめ、関係団体等への配布、ホームページへの掲載を行いました。

4) 教育・育成活動

学生に対する教育・育成活動として、協力設計事務所での短期実習を行う「オープンデスク」の実施、会員や建築関係者等に向けた種講演会・セミナー等の開催といった教育・育成活動を実施しました。また、建築設計業務を志す学生同士の交流活動を支援しました。

3. 建築制度整備事業

1) 継続職能研修(CPD)制度運営

建築家の社会的責務を果たすために必要な継続職能研修のために、CPD プログラムの認定(本年度の認定プログラム総数 1,824 件)をはじめとする CPD 制度の管理・運営を行いました。さらに、会員サービスの向上、会員の職能の充実をめざして、CPD のプログラムの多様化、オンライン受講可能プログラムの拡大(2023 年 3 月末時点コンテンツ数 65 件)や管理システムの高度化を進めました。

2) 建築家資格制度運営

建築家資格制度に関して、「登録建築家」の認定業務、制度普及のための活動等を実施しました(2023 年 4 月 1 日現在建築家資格制度登録者数見込み 1,495 人)。今後の資格制度のあり方等について検討を行いました。

3) 建築関連の法・制度の調査研究・提言

設計業務報酬基準(告示 98 号)の改定に向けた国交省の検討委員会に参加して意見提出をしました。また、国交省、東京都、神奈川県及び建築設計三団体で構成する「公共建築設計懇談会」に参加し、公共建築の質の向上のための提案を実施しました。また、BIM の普及促進のため、建築設計三団体が連携して、国交省の施策への支援を実施しました。

II 2022 年度通常総会

2022 年度通常総会を 6 月 29 日午後 2 時 30 分より 3 時 30 分まで、建築家会館 1 階大ホール(東京)にて開催しました。正会員数 3,293 名の内、書面表決者 924 名、委任状提出者 933 名を含む出席者総数 1,887 名により総会が成立し、議長に慶野正司会員を選出した後、下記議案が審議され、いずれも原案通りに承認されました。

[2022 年度総会議案]

- 第1号議案 2021 年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)、財産目録の承認の件
- 第2号議案 会員規程の一部改正の件
- 第3号議案 理事及び監事の選任の件
- 第4号議案 名誉会員選任の件

III 2022 年度理事会

2022 年度理事会を、対面で 6 回、zoom によるオンラインで 2 回、および書面審議 4 回の合計 12 回開催しました。各理事会の議事は以下の通りです。

[2022 年度理事会議事]

1) 第 288 回理事会(対面)(4 月 12 日開催)

- ①入退会者について
- ②(仮称)建築家資格制度再検討特別委員会設置について
- ③活動及び業務執行状況報告

2) 第 289 回理事会(対面)(5 月 31 日開催)

- ①入退会者について
- ②2022 年度通常総会開催及び議案について
 - ・2021 年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)、財産目録について
 - ・会員規程の一部改正について
 - ・理事及び監事の選任について
 - ・名誉会員選任について
 - ・2021 年度事業報告、2022 年度事業計画及び予算(報告)について
- ③遊休財産の保有制限への対応について
- ④特定準備金及び資産取得資金の積み立てについて
- ⑤特定費用準備資金等取扱規程について
- ⑥役員候補者選挙規程の一部改正について
- ⑦かながわヘリテージマネージャー協会との覚書締結について
- ⑧活動及び業務執行状況報告

3) 第 290 回理事会(対面)(6 月 26 日開催)

- ①会長、副会長及び支部長選任について
- ②顧問選任について
- ③入退会者について
- ④委員会委員等について
- ⑤活動及び業務執行状況報告

4) 第 291 回理事会 (書面) (7 月 20 日開催)

- ①入退会者について

5) 第 292 回理事会 (書面) (7 月 21 日開催)

- ①JIA 新人賞審査員について

6) 第 293 回理事会 (対面) (8 月 24 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会委員就任について
- ③委員会規程に関する運用基準修正案について
- ④学生入会申込書式改定案(北海道支部・関東甲信越支部・九州支部)について
- ⑤定年後嘱託者再雇用規程改定案について
- ⑥建築家資格制度規則等改定案について
- ⑦活動及び業務執行状況報告

7) 第 294 回理事会 (オンライン) (10 月 7 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会委員就任について
- ③JIA 個人情報保護規程修正案について
- ④鹿児島県ヘリテージマネージャー協議会との覚書等締結について
- ⑤活動及び業務執行状況報告

8) 第 295 回理事会 (書面) (10 月 26 日開催)

- ①入退会者について

9) 第 296 回理事会 (書面) (11 月 2 日開催)

- ①職責委員会委員について

10) 第 297 回理事会 (対面) (12 月 16 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会委員就任について
- ③広報委員会 WG 設置および非正会員委員就任について
- ④東海支部学生会員入会申込書式改定案について
- ⑤正会員入会申込書修正案について
- ⑥「JIA 公益事業活動助成」採択結果について
- ⑦歴史的建造物の調査等に関する建築学会との協定修正案について
- ⑧活動及び業務執行状況報告

11) 第 298 回理事会 (オンライン) (2 月 15 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会委員等就任について
- ③「JIA 公益事業活動助成」採択結果について
- ④懲戒規程による職責委員会報告の受理について
- ⑤2023 年度本部予算(事業別)(案)について
- ⑥JIA オープンデスク制度規則改正案
- ⑦活動及び業務執行状況報告

12) 第 299 回理事会(対面) (3 月 15 日開催)

- ①入退会者について
- ②会員資格喪失者について
- ③フェロー会員について
- ④名誉会員の選考に関する規程改定案について
- ⑤委員会設置および委員就任について
- ⑥懲戒審査委員会委員就任について
- ⑦カーボン・ニュートラル特別委員会名称変更について
- ⑧東海支部準会員・協力会員入会申込書式改定案について
- ⑨2023 年度事業計画(案)及び予算(案)について
- ⑩活動及び業務執行状況報告

IV 建築家認定評議会等

1. 建築家認定評議会

2022 年度建築家認定評議会を、zoom によるオンラインで 1 回、書面審議 1 回の合計 2 回開催しました。議事は以下の通りです。

- 1) 第 1 回臨時建築家認定評議会(2022 年 7 月 21 日) 書面審議
 - ・議長再任について
 - ・建築家資格制度規則類改定について
- 2) 第 2 回定期認定評議会(2023 年 3 月 20 日開催) Zoomによるオンライン開催
 - ・第 1 回臨時建築家認定評議会議事録について
 - ・登録建築家の認定、更新、再登録について

登録建築家総数は 1,495 名となり昨年より 38 名の減少(前年から 2.5%減少)となりました。正会員に占める登録建築家の割合は 42.0%(前年から 0.6%増加)となりました。

- ・UIA アコード／ガイドラインの説明、およびその日本語訳の報告
- ・支部からの報告
- ・建築家資格制度についての意見交換

2. 本部建築家資格制度実務委員会

本部建築家資格制度実務委員会は計 12 回*、毎回の過半の時間帯を職能・資格制度委員会と合同協議とする形で、開催しました。その他、メールによる稟議を8回行いました。 <* 認定評議会を含む> 主な作業は以下のとおりです。

- ・建築家資格制度規則、細則、審査要項、マニュアル(2種)の再改定作業および理事会对応
- ・建築家資格制度関連書式類の新設および改定作業
- ・ホームページ公開の登録申請説明書および申請入力の手引きの改定作業
- ・新規登録、更新、再登録対象JIA会員への、申請呼掛け、説明メールの配信
- ・2022 年度第 1 回(メール審議)、第 2 回(通常・オンライン開催)認定評議会の開催準備、補佐
- ・支部実務委員会と協働し、新規、更新、再登録申請者の調査、確認作業
- ・職能・資格制度委員会と協働し、UIA アコードの翻訳成果の配布、登録建築家証裏面の文面 8 項目の作成、資格制度のあり方や普及方法の検討などについての作業

- ・ 同委員会と協働し、沖縄大会プレイベント「沖縄で建築家を考える」企画・制作・実行
- ・ 理事懇談会および理事会での、資格制度に関する議論への対応として、職能・資格制度委員会との連名で意見書を提出：
 - 12月9日 「理事懇談会における建築家資格制度のご議論に向けて、ご検討のお願い」
 - 4月12日 「建築家資格制度に関するJIAの協議について」
 - 「理事懇談会での議論をふまえての、当面のタスク(検討たたき台)」

V 本部役員候補者選挙

2022年10月17日発行の「JIA MAGAZINE 404号」で2023年度本部役員候補者選挙告示を行い、12月15日に役員候補者の確定について第2回告示を行いました。

[2023年度役員候補者(2023年度総会にて役員選任を審議する予定)]

(氏名)		(所属支部)
【理事候補者】		
榎本 雅夫	(再任)	関東甲信越支部
大山 早嗣		関東甲信越支部
鈴木 弘樹		関東甲信越支部
楠本 正幸		関東甲信越支部
澤村喜久夫		東海支部
堂田 重明	(再任)	北陸支部
岡田 良子	(再任)	近畿支部
榊原 節子		近畿支部
下山 道男		九州支部
伊良波朝義	(再任)	沖縄支部
【監事候補者】		
赤羽 吉人	(再任)	関東甲信越支部

VI 委員会活動等報告

1. 委員会活動

1) 職能・資格制度委員会

職能・資格制度委員会は計20回、うち職能・資格制度単独で9回、本部実務委員会との合同で11回開催しました。その他WG会議、メールによる稟議を行いました。

主な作業は以下のとおりです。

- ・ 資格・認証についてのコンセプトおよび制度の検討
- ・ J5等各団体についての調査
- ・ UIAアコード・ガイダンスの日本適用についての検討
- ・ 資格制度WEBサイトの検討
- ・ DB等多様な発注方式における建築家の役割の検討
- ・ 統括設計専攻建築士、APECアーキテクトの資格制度比較検討
- ・ 本部建築家資格制度実務委員会と協働し、UIAアコードの翻訳成果の配布、登録建築家証裏面の文面8項目の作成、資格制度のあり方や普及方法の検討などについての作業

- ・同委員会と協働し、沖縄大会イベント「沖縄で建築家を考える」企画・制作・実行
- ・理事懇談会および理事会での、資格制度に関する議論への対応として、本部建築家資格制度実務委員会との連名で意見書を提出(ならびに上記に関する協議)：

12月9日 「理事懇談会における建築家資格制度のご議論に向けて、ご検討のお願い」

4月12日 「建築家資格制度に関する JIA の協議について」

「理事懇談会での議論をふまえての、当面のタスク(検討たたき台)」

2)業務委員会

今年度の業務委員会は、メールでの意見集約による意見照会への対応と、WEB 会議での情報共有・協議により活動を展開しました。特に、大きな課題となった告示第 98 号改正に向けた検討においては、コア会議を随時開催し、JIA 住宅等連携会議との密な協働により、多くの課題に取り組みました。内容に応じて、設計三会との情報集約を行い、強力な業界の意見として発信を行いました。また、以前より懸案となっている「改正意匠法」については、改めて特許庁との意見交換会が予定されることとなり、設計三会での意見調整を進めています。

<ワーキンググループ活動>

①建賠 WG

事故防止のため、また、会員の負担軽減のため、主として以下の項目を実施しました。

- ・構造未達オプションに関して、免責金額を縮小したプランを創設しました。
- ・JIA顧問弁護士の竹川忠芳先生をお招きして「設計・監理契約とその法的責任」と題してセミナーを開催しました。
- ・近畿支部ケンバイ勉強会を web 会議で実施し、建賠の仕組み、事故事例等を説明しました。
(ケンバイ勉強会については各支部2年に1度開催を目安としており、2022年度は2021年度未開催の支部を中心に開催)
- ・建築に関する事故防止を目的に「JIA 建築家賠償責任保険凶解事故例集(法令未達)」の発行に協力しました。

②約款 WG

「七会連合工事請負契約約款委員会」及び「四会連合建築設計・監理等委託契約約款研究会」活動と連動して WG を年 10 回開催し、JIA 会員としての意見集約を図り、具体的意見として提案を行いました。また両委員会に委員を選任し活動に参画しました。

- ・七会工事請負約款の調査研究活動として、下請工事用と既存改修を伴う工事請負約款に関する 2 つの部会(下請約款部会、改修約款検討部会)が設置されたので、JIA としての意見集約を図り、その活動に参画しています。
- ・七会のマンション修繕工事契約約款と四会のマンション修繕設監契約約款を統合した解説書の作成が決定し、次年度(2023 年度)頒布開始を目指し、執筆・編集活動に参画しています。
- ・七会工事請負約款の暴排条項及び発生土処理条項の追加について、JIA としての意見集約を図り、「七会連合工事請負契約約款委員会」に報告し、追加条項を盛り込んだ約款制定に参画しました。

③仕様書 WG

本 WG の 2022 年度活動は、特段の動きの無い 1 年となっています。

一方、年度末の時点では、国土交通省大臣官房官庁営繕部からの「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」令和7年版等の改定への意見照会に対する連絡体制の整備再確認を、共通仕様書令和5年版改正委員会に対してWGからの参加を決定して委員会参加の体制整備を行い、いずれも2023年度の業務の準備を行っています。

3)財務委員会

財務委員会では2018年度に、2016年度までの各支部・地域会の財務状況の調査・精査に基づき、支部活動費の配分方法を変更させていただきましたが、2019年度以降も引き続き、会員減少下でのJIAの健全財務のあり方を中心に検討・討議してきました。

2020年度に新型コロナの影響で、収支状況が特に支部・地域会で特異に一転向上する趨勢を受け、2021年末に各支部・地域会に収支・財務状況一斉調査を実施し、2022年度はその膨大な回答資料の分析整理に努めて、ジャンル毎に一覧比較掌握し所見・提言等を付して理事会に報告しました。

公益目的事業助成はコロナ禍での事業促進気運にも則り本年度も実施して、6件を採択しました。

4)総務委員会

総務委員会のミッションは「本会の運営に関する総務事項の管理」です。全国の支部から参加する12名の委員を中心に、会員の入退会、様々な規約類、その他課題について毎月の委員会で慎重な協議を行っています。

- ・委員会規程に関する運用基準の改定

活動方針、実状に照らし、年度中に2度の改定を行いました。

- ・JIA個人情報保護規程の改定

現行法令やニーズに沿って改定し、併せて運用基準を策定しました。

- ・入会申込書式等の変更

個人情報の取り扱いに関する文面、押印の省略、性別欄等の変更に加え、正会員入会申込書のワード入力を可能としました。

<ワーキンググループ活動>

①知財WG

知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会および知的生産者選定支援機構の活動に対応するJIA内部組織として、法整備連絡協議会およびシンポジウムの事務局支援、前年度の学校建築に関する国交・文科・総務3省合同通知を支部地域会を通じて地方自治体へ周知働きかけ、設計者選定に関する諸課題の検討、JIA住宅等連携会議との意見交換などを実施しました。

5)広報委員会

広報委員会のミッションは「JIA内部の情報伝達推進の統括と社会に向けた発信」になります。主に「社会に向けた発信」に係る活動を報告します。

まずはHPになります。懸案だったセキュリティリスク回避に向けて第1ステップのリスク低減策を実施しました。そして課題であった一般向けWEBサイトのトップページのリニューアルを行いました。特にこの課題においては、建築家の仕事やJIA建築家の良いイメージが消費者に伝わるよう、分かりやすく親しみやすいサイトデザインになることを目指しました。

次に JIA リーフレットですが、2022 年 11 月に 4 名の委員が担当する JIA リーフレット改訂検討チームを設置しました。5 種のリーフレットを 2 種に絞ってコンテンツやデザインの改訂検討を進めています。また重要なメディアである会報誌ですが、編集長を中心にする編集 WG は、毎月、編集会議を開催して「JIA マガジン」が会員にとって魅力的な誌面になるよう鋭意努力しています。ところでインタビューや JIA の活動紹介などの定番の企画に「事務所訪問」が今期から加わりました。

広報委員会は、毎月上旬に開催する会議で HP・WG などから進捗状況の報告を受けて、多様な視点からの意見交換を行いつつ「社会に向けた発信」の効果を高めるために力を尽くしています。

<ワーキンググループ活動>

①HP・WG

当協会の HP は、会員管理機能、会員専用サイト、一般向けサイトが一体になったモノリス的な HP システムになっています。コンサルから HP のセキュリティリスクについて懸念が指摘されていましたが、第 1 段階のリスク回避に向けて、現行の HP システムから一般向け WEB サイトを切り離し、セキュリティリスク低減に対応しました。

一方で一般向けサイトのトップページのリニューアルは、WEB デザイナーに委託しました。特筆的なことは、トップページにおいて各地で地道に活躍している建築家の作品の写真をスライドショーなどで紹介することにしたことです。具体的には 10 支部が推薦する 24 作品を、4 ヶ月ごとに 8 作品を入替える方法を採用し、さらに写真に添えるメッセージをコピーライターに委託しました。HP はパソコンに加えてスマホ等にも対応しています。トップページを除いた他のページのコンテンツが、現行をそのまま移行されているため内容などの検討が来期以降の課題と考えています。

なおリニューアルされた一般向け WEB サイトは 2023 年 4 月 3 日に公開しました。

②建築家 PR 動画推進 WG

本 WG は、地域社会に根差した活動をしている「頼りになる建築家」の職能と業績の認知度を上げるための PR 動画の作成と流布を行うために、2023 年 1 月に広報委員会内に設立されました。JIA 公式 SNS の運用を行うことを主体として活動を行うこととなります。今期は 4 回にわたる WG の開催を経て、映像メディアに関わる外部専門会社への委託契約を実施しました。

また次年度に向けて、コンテンツ作成のコストや効率性を鑑み、「JIA 建築年鑑 2021-2022」に掲載された作品のうち JIA 会員のものに限り、あらためて SNS 使用許諾を取り直すとともに、SNS 用に追加での写真や動画の募集も呼びかけました。そしてインスタグラムの公式アカウントとして「jia.japan」を取得し、テスト運用を 2023 年 4 月半ばより開始いたします。6 月の総会までに 30~40 作品の投稿になるよう、順次投稿を開始する予定です。

6) 教育委員会

当委員会は、教育プログラムに関する活動を担当しています。会員と将来の会員候補である学生への教育活動の活性化や、JIA の教育プログラムの全国的なプラットフォームである「JIA スクール」の活用促進などが現在の主要な議題です。各スクールやセミナーの活動を行う教育担当と、CPD プログラムの活動を行う CPD 担当を中心に、2021 年度からは全国の支部から委員にご参加いただき、各支部や地域会で行われている教育系事業のリストを作成しています。

7)表彰委員会

表彰委員会では、例年通り、日本建築大賞・優秀建築賞、新人賞、25年賞、環境建築賞を実施しました。まだコロナの影響はありましたが、昨年までほどではありませんでした。天候不順により、日本建築大賞の現地審査および最終審査に遅れが生じ、関連し建築年鑑の発行も、例年より遅れる見込みです。今年度は、久しぶりに表彰式を開催でき、4賞合同の表彰式は好評でした。また、最終審査も以前のような、公開での開催が再開しています。協議を重ね、あかりコンペも2023年度より再開することとなりました。

8)国際委員会

1. JIAが加盟する国際団体を通じての活動:UIA マドリッド大会に委員3名を派遣。また、ARCASIA ウランバートル大会にはJIA会長を含む6名を派遣しました。
2. JIAの協定締結国(協会)との定期的な活動:JIA 沖縄大会での国際会議(IPF)を主催。また、AIA(アメリカ)およびKIA(韓国)大会に参加しました。
3. 他国建築家協会等との協働イベントによる活動:リニア国建築家協会との共催イベント East-East 5を実施しました。
4. 他国建築家協会来訪による活動:なし
5. JIA 支部等による都市間交流・視察:九州支部が日韓学生ワークショップを開催しました。
6. 国際委員会が主催するイベント:前述のIPFをネットでライブ放映しました。また、Golden Cube 賞の審査をWebinar方式で公開しました(東海支部との共催)。
7. その他:一般財団法人日本建築センターから海外建築設計団体等調査業務を受託しました。

9)CPD 評議会

毎月1回CPDプログラムの認定審査を行う評議会を開催し、その間にプログラムの開催日が次回委員会より前のものの審査について、メール審査を計12回行い、今年度全体で、新規プロバイダーの6件の認定と合わせ、合計1,824件のプログラムを認定しました。

ここ数年WEBプログラムの拡充が徐々に進みましたが、コロナの5類引き下げをむかえ、対面での講習会や見学会が少しずつ戻ってきている印象です。全支部から委員が参加され、各支部からのプログラムの申請が多様になってきました。

10)職責委員会

懲戒請求のあった正会員1名について、会長からの付託を受けて審議を行い、審議の結果を報告書としてまとめ、理事会に報告しました。

11)懲戒審査委員会

理事会の付託を受けて、正会員1名の懲戒について審議を開始しました。

2. 必要時に立ち上げる委員会

1)選挙管理委員会

2022年9月15日開催の第1回選挙管理委員会にて、役員候補者選挙規程等の内容確認や選挙日

程等を決定し、10月17日に第1回告示を行いました。11月28日の立候補締切り日までに理事候補者、監事候補者とも候補者数と定員が同数であったため、投票は実施せず、候補者確定の第2回告示を12月15日に行いました。候補者等については前述の「V 本部役員候補者選挙」に記載しています。

2) 名誉会員選考委員会

2022年度通常総会に推挙する名誉会員について、5月19日に委員会を開催し、支部推薦2名、海外推薦1名の選考審査を行い、理事会に答申しました。

【支部推薦】 金子修司会員(関東甲信越支部)

篠田義男会員(関東甲信越支部)

【海外推薦】 ダニエルステファンハート氏(AIA 会長)

3. 特別委員会

1) BIM 特別委員会

2022年度は建築設計三会(日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、当協会)それぞれのBIM委員会共同で「設計BIMワークフローガイドライン 建築設計三会 提言」として纏めました。今年度これに引続き、共有パラメータ(GUID)と参考テンプレートの公開について検討を進めてきました。

パラメータを共通テキストファイルで管理して、共通IDに仕込めば、同じ組織内・で社内のプロジェクト間については連携ができる形になり、異なる会社間でのパラメータの共通化が可能になる、あるいはデータの受け渡しが非常によくあるというところで、今回「共有パラメータ」を公開する事にしました。

同時に通常は、設計者が内容設定するテンプレートも、初めて使われる方にも使いやすくするために、参考テンプレートの公開する事にしました。

公開は日本建築士事務所協会連合会HPのBIM GATEにて公開されます。

2) オンライン/リモート対応や環境整備に特化した特別委員会

前期から引き継いだ今期は、1、公益目的データベース再構築の実現と2、沖縄大会における会議等のオンライン化支援を行いました。1は、DB製作会社側の業務立込みのため5か月程度契約が遅れましたが、無事契約が済み作業が着手されています。委員会では、契約保留期間を利用して、構築するエキスパートインデックス(仮称)の検索方法につき改善を検討しました。また、着手後は、段階ごとに作業結果についてデモが行われ、成果の確認と変更・修正等の打合せを行いました。なお、作業は8月上旬まで行われる予定です。2は、昨秋沖縄にて開催された全国大会において、一部の会議・催しをオンライン化する新しい事業の在り方を提案・支援しました。開催日をプレ・ポスト期に移行できるため、イベントの重複や過密スケジュールが緩和され、費用面でも効果が出たと考えています。

3) カーボンニュートラル特別委員会

カーボンニュートラル連続セミナーは第一期6回、第二期6回に引き続き、第三期3回「まちとカーボンニュートラル」を実施しました。各回400人を超える視聴者を得て、録画の聴講含めると延べ2万人を超える聴講者数となりました。連続セミナーで得られた知見を基に行動指針策定の議論を重ね、トップダウンの指針ではなく、一人一人のJIA建築家が実務者としての実践と検証を公開し互いに議論を重ね洗練収斂させることが、これからの世代も一緒にJIAのカーボンニュートラルへの方向性をつくることになるとしまし

た。そのための場として、「JIA Chat Site|カーボンニュートラルの樹」をつくり公開しました。

4)業務報酬基準特別委員会

告示第 98 号改正に関わる検討委員会が当初予定から延長となりました。収集サンプルが大変少なく、多くの課題が発生したことによります。これに伴い、業務委員会及び JIA 住宅等連携会議で連携しながら検討委員会への対応を進めておりましたが、改めて特別委員会として組織することとしました。困難な課題が山積していますので、今後の業務報酬基準の在り方を含め、しっかりと議論を深めていきたいと考えています。

4. 全国会議

1)JIA環境会議

2021 年度に引き続きリモート会議を活用し、隔月で活発な会議を行いました。沖縄大会では半数以上の委員が集まり議論を深めることができました。CN 特別委員会の CN 連続セミナー第三期 3 回の企画運営をサポートし、LCA 評価の研究と政策提言のために関東甲信越支部に開設された LCA WG と協働しました。国交省社会資本整備審議会 建築分科会 建築環境部会 専門委員として、安田委員の後任に川島委員を推薦し継続着任しました。既存の各 WG は研究活動を継続しました。

2)JIA保存再生会議

コロナ禍の中、今年も web での定例会開催が主となりましたが、沖縄大会では久しぶりにリアルでの会合を実施することができました。また、今年度は、長野県及び福島県で、文化庁の近現代建造物緊急重点調査事業が開始されることになり、調査員の推薦を行いました。JIA 文化財修復塾 WG では、引き続き修復塾を開講し、歴史的建造物の保存再生に知見のある建築家を養成しています。外部団体との連携としては、今年度も、全国ヘリテージマネージャーネットワーク(HMN)協議会に運営委員として参加し、歴史的建造物に関する情報交換の他、5 団体協定についての意見交換も行われました。こういった場で関係者が議論することにより、協定の実効性が高まることが期待されます。

3)JIAまちづくり会議

JIA まちづくり会議は、全国 10 支部とまちづくり活動に関する情報交換を行っています。具体的には、「良質な建築・街づくり萌芽事例シート」等により、各支部の先進的なまちづくり活動等の共有を行っています。2022 年度は5つの事例シートが集まりました。昨年より始めた最近の各支部の活動の中から投票により事例を選定し、その活動の投稿者の方から直接説明を受ける「まちづくり萌芽事例オンラインレクチャー」を開催する予定です。

4)JIA災害対策会議

月1回のオンライン会議にて、各支部の活動、災害状況などについて共有し、意見交換をしています。また、今年度のミッションとして、災害対策支援ネットワークの作成、ポータルサイトの整備を行いました。ポータルサイトの内容を検討するための一環として、災害対策シンポジウムを2回開催し、次年度にも継続的に計画しています。このほか、カーボンニュートラルについて、災害対策会議としての提言などについても協議しています。また、継続協議事項として、JIA の BCP(事業継続計画)の策定にむけて、これ

までの計画案を再確認し、現状に合わせての見直しを行っているところです。

5) JIA建築相談連携会議

前年に続いて、コロナ禍による集会・会議・対外相談活動に影響が及び、相談活動・連携会議が滞った一年になりました。それでも、終息に向かって年度末には徐々に相談件数の回復がみられました。

一方では、行政の建築相談部門との情報交流、連携した建築相談を継続しております。

また、JIAの相談室相談員が各弁護士会の運営する紛争審査会の相談委員として参加活動をしております。

6) JIA 住宅等連携会議

2022年度は、シンポジウムやHPを通じて、社会的な問題に果敢に取り組む地域建築家姿を広く発信、そして設計事務所が抱える業務上の諸問題や法規制を含め、会員の議論の場、情報交換の場を作ることで、建築家職能の認知度向上と会員の意識の向上に努めました。

A) 地域建築家の質の高いデザイン力の発信

- ・新しい社会に向けて、環境、地域、生活を考える場づくり(シンポジウム開催)
- ・地域の社会的役割を担う建築家のHP発信

B) 建築設計事務所の業務改善への取り組み

- ・告示98号の戸建住宅の業務報酬基準改定の取り組み、業務報酬基準検討委員会の参加
- ・コンペ・プロポーザル参加推進の検討

C) 建築関係法規制の改善に向けての取り組み

- ・現行法令と現状社会との矛盾点のアンケートによる情報収集、分析、HPでの共有
- ・建築基準法のあり方に関する検討

7) その他の活動

全国卒業設計コンクール実行委員会

2022年6月18日、建築家会館大ホールを使用し、昨年に引き続きWeb開催にて全国学生卒業設計コンクールを開催しました。

全国から選抜された優秀作品51点を審査し、金賞1作品、銀賞1作品、銅賞1作品、審査委員特別賞5作品を決定しました。

VII 支部長報告

1. 北海道支部(小西彦仁支部長)

我々の活動に制限がかけられていたコロナウイルス感染症はまだ続いているようですが、規制の緩和が徐々に進み日常を取り戻しつつあります。そんな中で昨年秋には支部設立35周年記念事業として札幌芸術の森美術館において「北海道の建築展2022」を開催いたしました。支部の会員はじめ法人協力会や多方面の方々のご協力とご支援をいただき無事盛況な展覧会を開催することができました。JIA建築大賞2022も展覧会に合わせエントリー作品の展示や1次、2次審査も会場で行うことができました。また13年ぶりのキタコブシ賞(建築文化貢献賞)が写真家の藤塚光政氏に贈られるなど大きな事業が重なる年ともなりました。

[2022年度の主な事業活動]

- 1.北海道建築展の開催(会期 9月23日～10月10日):展覧会中の各イベントも無事開催することができました。本展は4400名の入場となりました。
- 2.支部会報誌「HOKKAIDO ARCHITECTSの横顔」の発刊
- 3.旭川スクールセミナーの開催
4. JIA 北海道建築大賞 2022 の開催:応募総数 22 作品の中から各賞が決まりました。
大賞、住宅部門優秀賞、一般部門優秀賞各 1 点、審査委員賞 3 点
- 5.旭川の「生き続けるモダニズム建築展」の開催(会期 6月3日～7月3日)
- 6.協力会主催イベント 合同 CPD セミナー25名参加、スタッフ勉強会 16名参加
- 7.諸官庁との連携として北海道と継続している「きた住まいるビレッジ」事業を継続中。
- 8.3年ぶりとなる支部長会議を開催し、交流が図られました。

2. 東北支部(進藤勝人支部長)

東北支部では、新型コロナウイルスの影響で1年延期となった「東日本大震災から10年企画」を無事行うことができました。プロローグイベント、メインイベント、エピローグイベントの3回に渡り開催し、メインイベントでは全国から50名のJIA会員に参加していただき、岩手、宮城、福島復興の現状をみていただきました。それぞれに思い溢れるイベントになったと思います。

また、6年ぶりの支部大会を山形で行うことができ、山形の歴史や風土を感じていただくよい機会となりました。

ようやく新型コロナウイルスの影響が落ち着きはじめ、様々な活動を行うことができた1年となりました。

[2022年度の主な活動]

- 1) JIA東北建築家フォーラム 2022(東日本大震災から10年企画プロローグイベント)
2022年5月20日(金)13:00-18:35
【第一部】 第1回 JIA 東北建築大賞 2020、第13回 JIA 東北住宅大賞 2019、第14回 JIA 東北住宅大賞 2021 表彰式 審査員講評 大賞受賞者講演
【第二部】 ・基調講演:「震災復興はコミュニティの復興である」講師:山本理顕氏
・パネルディスカッション「東日本大震災から10年:建築家に求められたこと・できたこと・できなかったこと・これから建築家に求められることは」
- 2) 東北公共建築設計懇談会 2022年6月28日(火)9:30-11:30
- 3) 東日本大震災から10年企画メインイベント 8月31日(水曜日)～9月2日(金曜日)
「繋ぐ | つなぐ」被災した岩手、宮城、福島の10年度の今(視察)
- 4) JIA25年選支部審査 応募1作品 支部審査会 2022年8月26日(金)、9月16日(金)
- 5) JIA 東北建築家大会 2023 山形(支部大会・東日本大震災から10年企画エピローグイベント)
- 6) 第26回 JIA 東北建築学生賞 2022年10月27日(木)12:30-18:00
- 7) 第2回 JIA 東北建築大賞 2022
第一次審査会 2022年11月30日(水)※提出書類確認
第二次審査会 2022年12月10日(土)11:00-17:00
第三次審査会 2023年3月29日(水)-31日(金)
最終審査会 2023年3月31日(金)16:00-17:00 表彰式 2023年5月12日(金)
- 8) 建築学生テクニカル・セミナー2022 2022年12月17日(土)10:00-12:00

9) JIA 東北支部技術セミナー(法人協力会員の講師による)

第1回 2022年7月12日(火). 第2回 2022年10月14日(金). いずれも 16:00-18:10

10) JIA 東北支部新年会 2023年1月20日(金)17:30-19:30

11) JIA 東北学生卒業設計コンクール 2023 2023年2月24日(金)13:00-18:00

3. 関東甲信越支部(渡邊太海支部長)

2022年度、関東甲信越支部は「魅力あるJIA・行動するJIA」を目指し、以下3つの重点活動を掲げました。具体的な取り組みを報告します。

1. JIA 活動の活性化と社会への発信

- ・本部オンライン/リモート対応や環境整備に特化した特別委員会の活動報告を行い、今後の会員間の交流に欠かせないエキスパートインデックスの重要性を認識しました。(1/13「新春の集い」3/24「委員長・地域サミット」)
- ・JIA 活動を社会により多く発信するため支部ホームページの刷新を行いました。(3/24「委員長・地域サミット」)
- ・保存再生活動の要望書や提言書を行政、関係者に提出しました。「旧林愛作邸」「旧更埴市庁舎」「品川区御料車庫」「目黒区美術館」などです。

2. 建築家の職能及び資質の向上

- ・建築家資格制度の勉強会を行いました。日本大学教授の速水清孝氏の講演「建築仕法の成り立ちとその目的」と常任幹事会でまとめた「資格制度をめぐる JIA の取組み」を題材に、オンラインながら会員間で資格制度の理解を深めました。(1/13「新春の集い」)
- ・総会後の会員集会では「建築家資格制度のこれから」をテーマに現在の状況などを発表予定です。
- ・国交省からの情報をタイムリーに会員に発信できるよう常任幹事会でダイジェスト版を作り支部ホームページに掲載しました。
- ・建築家賠償保険(ケンバイ)加入の推進として、関東甲信越支部が主体となり地域会に呼びかけを行いました。事故事例勉強会を中心に今後も取り組む予定です。

3. 建築家が社会貢献しやすい組織づくり

- ・オンライン/リモートの活用は広域にまたがるJIA活動には欠かせません。役員会、委員長・地域サミット・常任幹事会など主な会議はリモートで実施しました。(7/22「委員長・地域サミット合同会議」、3/24「委員長・地域サミット」)
- ・リモート会議への準備はリアルに比べて大変であり、限られた会員に準備などの業務が偏らない体制の必要性から常任幹事を増員しました。
- ・オンラインを活用したウィズコロナでの活動方法として新たにブレイクアウトルームを活用しました。新春の集いや地域会・委員長・部会長サミット後の懇談会では約80名をテーマごとに10部屋に分け7~8名でじっくり議論し好評を得ました。
- ・遊休財産の保有制限を超える剰余金の圧縮に関する対応策として、災害、大会イベント開催準備、情報システム改良、教育目的、地域連携事業への積み立てを行いました。
- ・全国大会など各地域会会員が参加しやすいよう地域会活動費についてのガイドラインを整理しました。

建築家を取り巻く厳しい環境のなか解決に向けて積極的に取り組む必要性、社会に貢献する建築家として、その責任を確実に果たすことのできる環境を築くことの重要性を再認識しました。

4. 東海支部(大瀧正也支部長)

2022年度は、やはりコロナ禍の状況に左右された1年となりました。昨年7月頃より第7波、その後の第8波による影響はとてもの大きいものでした。その中、東海支部の事業活動と致しましては、感染対策を万全とした上での集合・対面方式の復活等、コロナ禍以前の日常的な事業活動風景が見え始めた1年となりました。この集合・対面方式について、その雰囲気は仲間意識を高めるといった、数字では表すことの出来ない「場の盛り上がり感」が存在すると思います。一方、WEBを利用した会議形態にも魅力があり、特に遠方の会員の参加については負担軽減といったメリットも有ると思います。これは、参加意識の向上のためにハードルを下げる役割もあるように思います。いずれの方式についても色々な考え方があり、今後の課題であると感じています。不慣れな中、こうして1年間無事に務めることが出来たのも、会員の皆様の多大なご支援のおかげとたいへん感謝申し上げます。以下に年間を通じての主要な事業についてご報告致します。

- ・機関紙「ARCHITECT」の発行

毎月発行を行うことが出来ました。連載・特集記事、各地域会事業講演会報告等の読みやすさ、手に取ったときの紙質の良さ等、非常に充実した読み応えのある機関誌になっていたと思います。

- ・支部継続事業(開催順)

- ・第27回 JIA 東海学生卒業設計コンクール

- ・第9回 JIA 東海住宅建築賞

- ・第38回 JIA 東海支部設計競技「しごと」と生きる家

各継続事業につきましては、集合・対面方式という日常を取り戻したいという各委員会の強い気持ちを感じました。特に東海住宅建築賞は、密にならないような対策を講じた上で現地審査による二次審査を実施することが出来ました。このように困難な中、事業が開催できましたのは各事業委員長、委員の皆様及びご協賛いただきました皆様・各社のおかげとたいへん感謝申し上げます。

- ・2023年度建築家大会常滑(仮称)実行委員会の開設

2023年度建築家大会常滑(仮称)の開催予定を受け、大会実行委員会が設立されました。「環る」(まわろ、めぐろ、よみがえろ)をテーマのもと、コンテンツ及び運営についての企画立案が進行中です。2023年度は開催に向けて皆様の今後のご協力をお願い致します。

- ・ゴールデンキューブ賞の審査会・表彰式・運営

ゴールデンキューブ賞(子どもを対象とした建築/まちづくりの教育活動)本部委託事業として東海支部が企画運営、審査会・表彰式を実施しました。2023年1月21日建築家会館において対面方式(WEB併用)にて開催されました。コロナ禍の中で応募された活動数は多数とは言えませんが、会場参加者が多く、白熱した議論と審査になりました。開催において委員長はじめ委員の皆様、関係本部委員会、本部事務局の皆様には厚くお礼申し上げます。

5. 北陸支部(堂田重明支部長)

2022年度はコロナ禍にも少しずつ慣れ、講習会やセミナーもリモート方式や対面とリモートのハイブリット方式で、ある程度のこと出来たと思っております。

支部事業としては『JIA北陸支部大会2022 in 金沢』を2日間に渡って開催し、初日は総会・記念講演会・大会懇親会、2日目は卒業設計コンクール北陸支部公開選考会、そして特別講演会としてJIA新人賞の3人の建築家に卒業設計コンクールの審査講評を交えての講演をして頂きました。

各地域会での活動としては、大学や工業高校への会員の出前授業や、こども建築塾(サマーキャンプ・ワークショップ)等の青少年事業、会員と大学(学生・院生・教授)との「日々の気付き発表会」、又、建築7団体による「新年建築交流会」、JIA会員と協力会員との合同セミナーの開催等を行うことが出来ました。

去る5月5日に、石川県能登地方で震度6強の大きな地震があり、多くの被害が出ました。北陸では能登を中心に震度5・6の地震が近年頻繁に起きています。北陸支部では今までと同様、災害に強い強靱な地域づくりを目指しており、県や全市町村との防災協定や防災ネットワークづくりとともに、JIA北陸支部三県の連携をはかりながら、「社会から頼りになるJIA」を目指して会員一丸となって頑張っていきたいと思っております。

[本年度の主な活動]

1) 総会

5月21日「金沢市文化ホール」にて開催しました。各議案について異議なく承認されました。

2) JIA 学生卒業設計コンクール北陸支部審査会

5月22日「金沢市文化ホール」にて開催しました。9名の審査を行いました。

3) JIA 北陸支部大会 2022in 金沢

5月21日 22日「金沢市文化ホール」にて開催しました。

・大会特別講演(中川エリカ氏)

・JIA 次期会長交流会(佐藤尚巳氏)

・JIA 新人賞講演(魚谷繁礼氏、高橋一平氏、中村竜治氏)

4) その他

支部役員会、建築家資格制度実務委員会、支部会計監査懇親会・ゴルフコンペ・新年会を行いました。

6. 近畿支部(松尾和生支部長)

2022年度はコロナ禍終息に向けて、社会変化が進んだ年であった様に思います。建設物価上昇と社会の価値観変動は建築社会にも大きな影響を齎した様に感じます。オンラインも常態化し、時間が有効に利用されているのか建築家の活動や社会的役割は、コロナ禍前よりも多忙になった様な気がしています。JIA サポートの発注支援をはじめとして、社会が建築家職能を認知し、必要とし始めているのを肌で感じた一年でした。

一方、支部ではこれまでに知り得なかった事象が見え始め、様々な問題も露呈した年度になった様にも思います。本部、支部、地域会の JIA としての連携、役割、ガバナンスを考える良い機会にもなった様に思います。コロナ禍が齎した社会変化は「新時代」の公益活動に対応する組織的変化も必要な時ではないか考えるこの頃です。社会が建築家職能を必要とし始めている昨今、JIA としての組織的環境整備が急がれる時なのかと感じています。時の流れの変化にも JIA として俊敏に対応してゆくことが、「頼れる建築家」として真の意味で社会との距離感を近づけ、JIA がより認知されてゆくことにも繋がるのではないのでしょうか。

[2022年度 主な事業活動]

① 戒橋公衆トイレデザイン・建築設計公募型コンペティション発注支援業務【JIA サポート】

② 学生コンペによる近畿支部事務局会議室(綿業会館)家具改修【学生委員会】

③ HP 再整備、table2発刊、メールマガジンの発行(12回)【広報委員会】

④ 建築家に知って欲しいシリーズ セミナー開催【マスターズ委員会】

⑤ JIA-K2 CUP 開催【協力会員委員会】

⑥ Learning salon(勉強会)の開催【役員会】

- ⑦在阪建築 15 団体合同新年交礼会の開催【JIA 近畿支部が当番会】
- ⑧「DIPLOMANIA4」卒計コンクール入賞者の講評会の開催【青年委員会】
- ⑨環境セミナー「脱炭素に向けての建築設計と法規の変動-アメリカでの実践を踏まえて-」の開催【環境委員会】
- ⑩卒業設計コンクールの開催【建築教育研究会】
- ⑪近畿支部大会京都(リアル開催)を 2023 年度 9 月開催に向け企画中
- ⑫景観まちづくりフォーラム開催、「湖国すまいの見聞録」出展など【滋賀地域会】
- ⑬建築と子供たち、見学研修会開催など【京都地域会】
- ⑭アーキテツカフェ、すまいまちづくり育成塾、歴史的建築物セミナー開催など【兵庫地域会】
- ⑮在阪建築 15 団体合同新年交礼会、役員会勉強会、建築相談室、弁護士勉強会開催など【大阪地域会】
- ⑯ドローン操縦体験会、バイオマス発電工場見学会、御所町プロジェクト 街歩き+講演会開催など【奈良地域会】
- ⑰JW-1 グランプリ 2022、建築相談室、第 6 回きのくに建築賞、CORE TALK in WAKAYAMA 開催など【和歌山地域会】

7. 中国支部(武田賢治支部長)

2022 年の活動を振り返ると、開始にあたる支部総会は集合形式で開催でき、久しぶりに支部面々のお顔を直接拝見でき、交歓することができました。ちょうど会長交代時期にも当たり、佐藤新会長(当時予定者)にも参加いただき、「頼りになる建築家、頼りになる JIA」という活動方向のお話をお聞きできました。私たち建築家にできることは、過去の経験を活かした貢献や提案をすることが重要であると思っています。支部活動も昨年度に比ベコロナ前の平常時に戻りつつありますが、以前のように戻っていない面もあります。特にオンライン化による新しい基盤は、活動の合理化にも寄与しており、今後も新しい方向として進んでいくものと思います。支部役員会は集合形式を残しながらも、約半数はオンライン形式で開催し、各委員会もオンラインを利用した開催が多くなって来ております。移動時間の制約等も受けにくく、皆にとってより有益な開催が可能で、今後も引続き交流のベースになっていくものと思います。本年度の具体的な個々の内容は以下のとおりです。

- 1)「JIA 中国支部建築家大会 IN 津山 2022」は例年通りの 11 月に岡山県津山市で開催できました。稲葉なおと氏による「津山 美しい建築の街」のお話を聞き、建物探訪や街並み散策など有意義なひと時を過ごすことができました。
- 2)「第 14 回 JIA 中国支部建築大賞 2022」は例年になく応募期間を長くし、11 月の支部大会に合わせて一次審査を集合形式(オンライン併用)で開催しました。審査員は審査委員長の古谷誠章氏のほか村重保則氏、前田圭介氏の 3 名で、2 月には 2 次審査を行い受賞作品を決定しました。一般建築部門:A&A LIAM FUJI(原田真宏、原田麻魚、MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO、リム・ギリック)、住宅部門:畑の家(後藤亜貴、後藤亜貴建築設計事務所)大賞を受賞しました。
- 3)作品出展支援として「JIA 中国学生卒業設計コンクール 2022」「JIA 岡山学生卒業コンクール 2022」を開催し、「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2022」への参加作品を推薦しています。
- 4)毎年 2 月に予定していた「海外研修ツアー」や他支部との支部間交流などの活動は、未だ再開できておらず今後の課題として残されています。その他公益社団法人である本会の立場から、各種活動の中でも被災時への対応は重要な視点で、被災地支援やまちづくりへの支援、環境問題に対する対応、子供や学

生の建築への関心喚起のほか、建築物の保存や活用推進など地域に根差した公益事業を進めて来ていますが、コロナの影響下で延期していた活動もあり、今後の再開を望んでいる状況です。

8. 四国支部(伊月善彦支部長)

2020・21 は、コロナウイルスの影響で大変な日々が続きましたが、今年度においてはようやく収束への道筋が見え、当初はオンラインを中心とした会議や活動も行っていました。オンライン上では限定的なコミュニケーションしかできないという課題も感じており四国支部として改めて会員の声を聞きより多くのメンバーと顔を見ながらの対面会議を実施することに方針転換し、支部と地域会が連携し JIA のベースとなる地域会活動が円滑に進む環境づくりを整備することを念頭に置き活動してまいりました。各活動の概要を以下にまとめます。

1) 5/28 「JIA 四国支部建築家大会 2022 in 高知」

4 県持ち回りで行われる支部大会、2022 年度は高知開催でした。

2) 徳島県佐那河内村-これからの村づくりに対する提言書作成 (JIA 四国支部にて受託)

3) 8/16-8/20 「香川の近現代建築」と市民参加型関連事業を継続的に開催

「船の体育館展」およびセミナー 600 人程度参加

4) 愛媛県において災害対策として 4 会 (JIA・建築士会・事務所協会・建築学会) 連携協定のスタートアップ開始

5) 11/4-11/5 「四国の森プロジェクト」伐採ツアー@愛媛開催

6) 11/26 第 5 回四国建築賞表彰式開催

7) 1/26 5 会 (建築士会、事務所協会、JIA、学会、JSCA) での災害ネットワークの協議実施

8) 1/28 愛媛県 日土小学校にて子ども学習発表会開催

9) 2/18 「第 31 回 JIA 建築市民講座 in 徳島」開催

「これからの住まいを考える」講師:堀部安嗣氏

10) 3/20-3/21 奈良地域会と徳島地域会交流会開催

他支部の地域会単位での初交流会。徳島のメンバーの建築を見ていただきました。

11) 3/26 市民参加例会「JIA 船の体育館徹底解説 in 香川」開催

12) 4/22 第一回「木子七郎の建築と愛媛」(市民参加)開催

13) JIA メンバー+市民参加の「archi café in 徳島」月 1 回継続開催

毎回テーマを決めて自由な議論・雑談を繰り広げています。

9. 九州支部(松山将勝支部長)

今年度の九州支部の主な事業は、リモート主体の活動から本来の対面での開催に切り替え、安全対策を徹底しながら実行して参りました。その中でもコロナ禍で延期となっていた支部大会を 4 年ぶりに北九州市で開催し、100 名を超える参加者もあり大きな成果を生み出した大会となりました。昨年度からスタートした支部長漫遊記と題した次世代に向けての新たな取り組みも成果が見え始めています。来年度以降も JIA に所属する事の価値を示し、人材育成を強化しながら JIA の未来に向けた活動を精力的に推し進めて参ります。

1) JIA 九州支部大会 in 北九州 2022

北福岡地域会が長年取り組んできた日韓合同学生ワークショップと合同開催となった九州支部大会は9月23日～24日の2日間に渡って開催され、日本からは4校5チーム、韓国からは3校4チームが参加し、北九州市の歴史ある街区に「2100年に建つ建築」を提案する作品が発表され、国際色豊かな大会となりました。こうした国際交流もJIAの価値のひとつである事を改めて実感すると共に、アジアの窓口としての九州の特性を生かし、建築文化の向上に寄与する活動を今後も継続して参ります。

2)JIA九州建築塾 in 熊本

今年度で22回目を迎える九州建築塾は、建築設計事務所に所属する若手所員を対象とした合宿形式の建築塾です。コロナ禍で2年間延期を余儀なくされましたが3年ぶりに熊本で開催する事ができました。熊本地震から7年が経過した現在の復興状況や熊本型災害公営住宅の視察を行い、そこから見えてくる課題と未来志向型の提案をグループで発表し活発な議論が交わされました。

3)九州支部広報誌「BULLETIN」の充実度を高める。発行:2022年度6月、9月、12月、3月

コロナ禍の長期化で地域会間の交流や情報交換が薄まっている現状を踏まえ、今年度は特に広報誌の充実度に注力した1年でした。来年度も新たな企画を立案しながら、引き続き広報誌の充実度を促進して参ります。

4)デザインレビュー2023の開催

今年で28年目を迎えた学生実行委員会主催によるデザインレビューは長年、九州支部が共催としてサポートしている事業です。今年も対面での開催が実現し、全国各地から283作品の応募があり、本選に残った69作品にて公開審査が行われ2日間に渡り、建築家5名のクリティークと学生による白熱した議論が交わされました。

5)デザインレビュー高校生レポーター事業・エコルサポート事業

高校生レポーター事業は、九州全域の高校生を対象に大学生の建築議論の場であるデザインレビューに派遣する事業です。また、エコルサポート事業はJIA会員が小学校に出向き、小学生と一緒に模型を作りながら建築の楽しさを伝えていく活動で、共に建築教育支援活動の一環として九州支部が取り組んでいる事業です。九州建築界の未来への人材育成もJIAが担うべき大切な役割と考え、引き続き事業の強化を図って参ります。

10. 沖縄支部(伊良波朝義支部長)

2022年度は第7代支部長へ就任し、2期目最終年となりました。コロナ禍の影響も多少はありましたが、支部長就任時から「頼れるJIA」、「学べるJIA」、「楽しめるJIA」を基本理念に掲げ、これまで毎年継続してきた公益事業を中心に実施することができました。特に10月に開催しました「JIA建築家大会2022沖縄」は、会員始め多くの県民にも参加頂き、安全・安心な環境のもと成功裡に終了することができました。大会を通じ人的交流の大切さを改めて実感させられたのではないのでしょうか。

本年度も日々変化する社会環境に応え、地域に根ざした事業を展開し、社会から信頼され頼られる建築家、JIAとなるよう、また引続き若手育成にも積極的に支援して参りたいと思います。

[2022年度の主な事業活動]

- 1)「機関紙かぬち」26号発刊(通年事業)
- 2)「JIA建築家大会支部イベント」(2022年10月1日)
ティンダフラッグス(U40コンペ)の10年を振り返る(WEB開催)
- 3)「JIA建築家大会2022沖縄」(2022年10月20日～22日)

参加者: 県外 387 人(内一般 9 人)、海外 16 人(4 か国)、県内 283 人(内一般 203 人)、合計 686 人

4) 「建築展」(2023 年 3 月 18~19 日)

講演会: 重村力氏「地域性と同時代性」= 沖縄との出会いと学び、そして未来

エクスカーション(バスツアー): Team ZOO の手掛ける沖縄の痕跡を辿る

5) 「第 26 回卒業設計作品選奨公開審査」(2023 年 3 月 18 日)

工業高校部門 4 点、短大、専門・専修学校部門 3 点、大学部門 6 点、応募総数 13 点

6) 「第 11 回ティータフラッグス 2022 海軍壕公園展望台」公開審査(2022 年 12 月 22 日)

県主催、建築設計四会と共催し審査委員として参加、応募総数 46 作品

7) 「第 8 回沖縄建築賞」公開審査(2022 年 9 月 19 日)

建築設計三会との共催、審査委員長古谷誠章氏

住宅部門 14 点、一般部門 20 点、応募総数 34 点

8) 「公共建築の日・公共建築月間講演会」(2022 年 11 月 28 日)

中本清氏「沖縄の近代建築のあゆみ」WEB 講演会共催

9) 「国際交流事業」コロナ禍により中止

10) 「第 6 期沖縄未来建築塾」コロナ禍により中止